



学校だより No.11

加治木の風

「読書・あいさつ・あせ」
始良市立加治木小学校
令和3年2月10日

学び合う力

「今日は『加治木小まつり』があるんだ。たのしみなんだ。」

登校時、そう話しかけてくれた男の子は、『加治木小まつり』が楽しみで仕方なかったのでしょう。

案内を受けていた私も子供たちが準備してくれたお金を持って会場へ向かいました。1年生は、パンやさん、洋服やさん、文房具やさんなどのお店。2年生は、ボーリング、わなげなどのゲームやさん。どの店も大変な盛況でした。

あるお店でこんな子供たちのやりとりが聞こえてきました。



客：「どれもおいしそうですね。」
店員：「そうですか。ありがとうございます。」
客：「どれがおいしいですか。」
店員：「〇〇パンもけっこうおいしいですよ。」
客：「じゃ〇〇パンを買います。いくらですか。」
店員：「10円です。(お金をもらって)ありがとうございます。また来てくださいね。」



店員A：「ゲームの説明をします。(やり方を説明)景品もあるのでがんばってください。」
店員B：「待っている人はこちらにすわって待ってください。」
店員C：「景品はこちらです。おめでとうございます。」
客：「ありがとう。楽しかったあ。」

店員やお客になりきって生き生きと活動自体を楽しんでいる子供たちの姿から、改めて子供たちの「**学び合う力**」を引き出すことが私たち学校・教師の役割であることを認識させられました。

子供たちは準備の段階でどうしたらお客さんに買ってもらえるか、楽しんでもらえるかお互いに考えを出し合ったのでしょう。道具や客への接し方にそのことが現れていました。

現在、学校では、主体的・対話的で深い学びの授業づくりに取り組んでいます。子供たち1人1人が問いや課題意識をもって自ら課題を追求し、他との交流を通して学びを深める授業をイメージしています。教師の問いかけに1部の分かった子供が手をあげ、教師が理解させたいことを押さえる授業では子供が主体的に学習しているとは言えません。子供たちは子供同士の関わりを通して学習への主体性を高め、学びを深めていきます。

コロナ禍にあって、リモートによる授業の実施も今後進んでいくでしょうが、子供同士が直接関わり合いながら学びを深めていくという学校の役割を大切にしていきたいと考えています。



